

宇宙たんけん

つかさきあいろ

目がさめると、2090年にタイレスリ<sup>ツ</sup>ブしていたぼくと弟。宇宙たんけんのたびに

出ることになりました。

まずは、月のホテルにとまることにしました。大きなスペースシャトルみたいな形で、地<sup>き</sup>う人と宇宙人がとまれる月のホテルです。大きな月のクレーターのおんせんもありました。そのクレーターの中のおゆの色は、

いろんな色がまざっていて、クレーターのおんせんには、ガラスでできたドームがあります。おんせんでした。そのおんせんに入りながら、みどり色と青色の地<sup>き</sup>うを見ました。

ぼくは弟に、

「なあ、月から見た地<sup>き</sup>うって、すごく大

きいね！」

と言ふと、弟は

「そうだね。あ、日本見つけた!!」

といました。

「うだね。あ、日本見つけた!!」

ぼくたちははじめて月から地さうを見たのです。つきは火せいに行くことにしました。たた。月のホテルから火せいに行くために、細長くて丸いとうめいのチューイブのような形をしていたいる宇宙せんにのりました。その宇宙せんはへびのようにつぐくみらいの宇宙せんでした。その宇宙せんにのって火せいにむかいました。

宇宙せんのレストランで、ぼくたちはおいしこパンバーがーをたべました。となりでいしにたべていた月と火せいのロボットにほくたちが日本のむかし話の「ももたろう」や、「さるかにがせん」の話をしてあげると、とてもよろこんでくれて、そのロボットたちと友だちになりました。

そのお話のおれいに、ロボットたちがぼくたちのしらない、宇宙のひみつを教えてくれました。そのひみつの一つに、火せいには、1091このひみつのドアがあるといふこと

ところに行けるひみつのドアなのです。その  
ひみつのドアを開けるには、手のひらぐら  
いの石にくろいボタンがついているものを、さ  
がすとよいと聞いたので、ぼくたちは火せい  
にとうち<sup>や</sup>くしてから、ほかの大やロボット  
に見つからないよう、石の下をこ<sup>ノ</sup>そりさ  
がしました。

ぼくたちは、ひみつのドアを開くくろい  
ボタンがついた石を、や<sup>、</sup>と見つけることが  
できました。ひみつのドアを見つけるのがた  
のしかったので、も<sup>、</sup>とたのしいことがした  
たくな<sup>、</sup>たぼくたちは、おもち<sup>や</sup>ワールドに  
行くことにしました。ぼくたちは、ひみつの  
ドアのボタンをおして、

「おもち<sup>や</sup>ワールド!!」  
二人で下にとびおりたら、おもち<sup>や</sup>ワールド  
と言うと、地めんにあるドアがひらいたので  
にフキました。

そこでは、地めんでは見たことがないお  
もち<sup>や</sup>を、二に来た人だけがもらえるので

とてもうれしくなりました。たとえば、けし  
ゴムぐらいの大きさの宇宙人をそだてるキツ  
トや、宇宙人のおてつだいロボット、小さな  
宇宙人の下におさらをおくと、すきなたべも  
のが出てくるおもちゃです。ぼくは、けしゴ  
ムくらいの大きさの宇宙人をそだてるキツト  
をえらんで、弟は小さな宇宙人がのるISHO  
のおもちゃをもらってよろこんでいました。  
ぼくたちは、そこでいっぽいあそびました。  
でも、お父さんとお母さんかぼくたちの二  
とをしんぱいしていろかもれないと思つた  
ので、地きうにがえることにしました。そ  
して、来た時と同じようにはみつのドアに、  
と見て、ドアにとひこみました。  
「地きうのぼくたちの家!!」  
すると、ふわふわのベッドの上におりまし  
た。火せいから、ひみつのドアでかえって来  
たので、お父さんとお母さんがひつくりして  
いました。お母さんは、ぼくたちがふじにか  
えつたので、ようこんでいました。  
ぼくたち

は、宇宙たんけんの話をして、おもちゃも見  
せてあげました。お父さんとお母さんは、  
すごくたのしそうなたんけんに行つてき  
たね。えらい、えらい。

と言つて、あたまをなでてくれました。ぼく  
は、さいしょはドキドキしていたけれど、ゆ  
う気を出して、宇宙たんけんに行つてきて上  
がつたなと思いました。

こんど宇宙たんけんに行く時は、家でく  
あのひみつのドアで行こうと思ひます。

おわり